

今日のトピック

豪州の金融政策は据え置き (2016年11月)

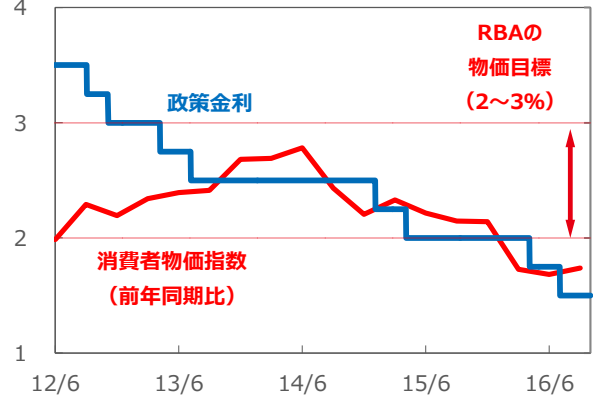
インフレ率は豪州中銀の想定に沿った推移

ポイント1 史上最低の1.5%を維持

物価上昇率はRBAの想定範囲内

- 豪州準備銀行 (RBA) は11月1日に開催した金融政策決定会合で、政策金利を1.50%に据え置くことを決定しました。ブルームバーグ社の集計によれば、対象27名のエコノミストのうち21名が据え置きを予想していました。
- 10月26日に発表された16年7-9月期の消費者物価上昇率は、RBAの注視するトリム平均値 (異常値をつけた項目を除いた物価指数) で見て、前年同期比 + 1.7% でした。目標の下限である + 2.0% を下回りましたが、RBAが8月に公表したインフレ見通しとは概ね整合的でした。景気判断にも大きな変化がなかったことから、政策金利を据え置いたと考えられます。

(%) 消費者物価指数と政策金利



(注) 消費者物価指数は2012年4-6月期～2016年7-9月期。消費者物価指数はトリム平均値。政策金利は2012年6月30日～2016年10月31日。

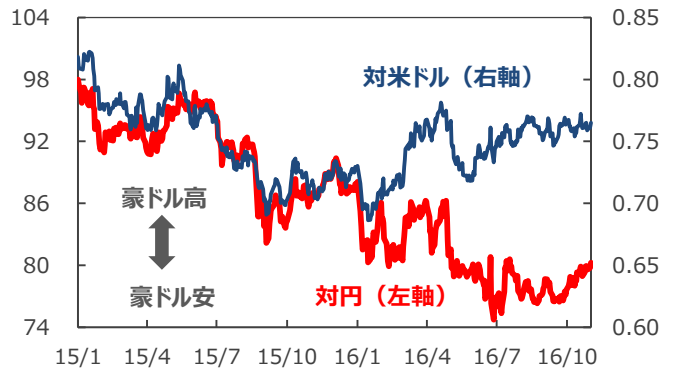
(出所) Bloomberg L.P.のデータを基に三井住友アセットマネジメント作成

ポイント2 当面は現状維持の見通し

声明文は前回とほぼ同じ内容

- 声明文の内容に、前回から大きく変わったところは見られず、先行きの金融政策スタンスについても特に言及はありませんでした。
- 豪州経済は、鉱業部門における設備投資の落ち込みを、雇用の改善や金利低下等による個人消費、住宅投資、輸出の増大で吸収し、拡大基調を維持する見込みです。

(円/豪ドル) 豪ドルの対円、対米ドルレート (米ドル/豪ドル)



(注) データ期間は2015年1月1日～2016年11月1日。(年/月) 2016年11月1日は日本時間14時時点のレート。

(出所) Bloomberg L.P.のデータを基に三井住友アセットマネジメント作成

今後の展開 豪ドルは底堅い推移へ

- RBAの政策金利据え置きは想定通りでしたが、市場エコノミストの2割程度が利下げを予想していたこともあり、会合直後の豪ドルは対米ドル、対円で上昇しました。
- 物価動向次第では、来年前半にRBAが利下げに踏み切る可能性もありますが、世界的な低金利、景気回復の継続、原油を除く資源輸出価格の堅調などから、豪ドル相場は底堅い展開となりそうです。

ここもチェック!

2016年10月27日 最近の指標から見る豪州経済 (2016年10月)

2016年10月 4日 豪州の金融政策は前回に続き据え置き (2016年10月)

■ 当資料は、情報提供を目的として、三井住友アセットマネジメントが作成したものです。特定の投資信託、生命保険、株式、債券等の売買を推奨・勧誘するものではありません。■ 当資料に基づいて取られた投資行動の結果については、当社は責任を負いません。■ 当資料の内容は作成基準日現在のものであり、将来予告なく変更されることがあります。■ 当資料に市場環境等についてのデータ・分析等が含まれる場合、それらは過去の実績及び将来の予想であり、今後の市場環境等を保証するものではありません。■ 当資料は当社が信頼性が高いと判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。■ 当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。■ 当資料に掲載されている写真がある場合、写真はイメージであり、本文とは関係ない場合があります。